

平成 22 酒造年度全国新酒鑑評会にて独自開発酒米「白鶴錦」で 2 年連続金賞受賞

白鶴酒造株式会社（本社：神戸市、社長：嘉納健二、資本金：4 億 9,500 万円）は、平成 22 酒造年度全国新酒鑑評会（独立行政法人 酒類総合研究所 主催）において、白鶴独自開発酒米「白鶴錦」で醸造した出品酒が金賞を受賞しました。

<白鶴独自開発の酒米「白鶴錦」について>

白鶴酒造は優良酒米を開発する為、「山田錦」の母にあたる「山田穂」と父にあたる「渡船（わたりぶね）」を交配させ、兄弟品種である「白鶴錦」を育種しました。2007 年 2 月に品種登録が受理されました。

この開発は酒米の最高峰と称される「山田錦」の優良形質を解明することで今後、更に優れた酒米開発の可能性に応用したいという考えから行いました。

これまでの品種開発は「山田錦」の子や孫の育種がほとんどでしたが、兄弟米を育種することは初めてのケースです。「白鶴錦」の特長は「山田錦」に比べ粒・心白（中心部にあるでんぷん質）が大きく、心白の発現率も「山田錦」と同等で、お酒にした時の味わいの深さが特長です。「白鶴錦」で醸造した「超特撰 純米大吟醸 白鶴錦 720ml」は 2009 年から 3 年連続モンドセレクション最高金賞を受賞しました。「白鶴錦」での全国新酒鑑評会への出品は、昨年に引き続き 2 回目で、2 年連続の金賞受賞です。

<平成 22 酒造年度全国新酒鑑評会について>

醸造技術と品質の更なる向上を目的とした平成 22 酒造年度全国新酒鑑評会は、広島県東広島市の独立行政法人酒類総合研究所にて 4 月 20 日～22 日に予審、5 月 10 日・11 日に決審が行われ、5 月 20 日にその結果が同所ホームページ上 (<http://www.nrrib.go.jp/>) で公開されました。

以上